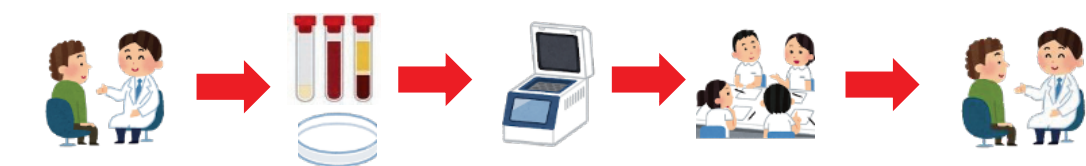


● 活動目的

がんの組織または末梢血を使って多数の遺伝子を同時に調べる「がんゲノムパネル検査」によって、遺伝子変異を解析し、それを元に治療を行うことを「がんゲノム医療」と言います。2019年6月にがんゲノムパネル検査が保険適応となりました。対象患者は①標準治療が終了②標準療法がない③原発不明がん④希少がん⑤小児がんです。当センターは、2020年1月に厚生労働省から「がんゲノム医療連携病院」に認定され、2020年10月よりがんゲノム医療に携わる診療科等のスタッフと連携を図り、患者さんの診断や治療に役立つがんゲノム医療の提供のために活動を行っています。

● 活動状況

がん遺伝子パネル検査の流れ

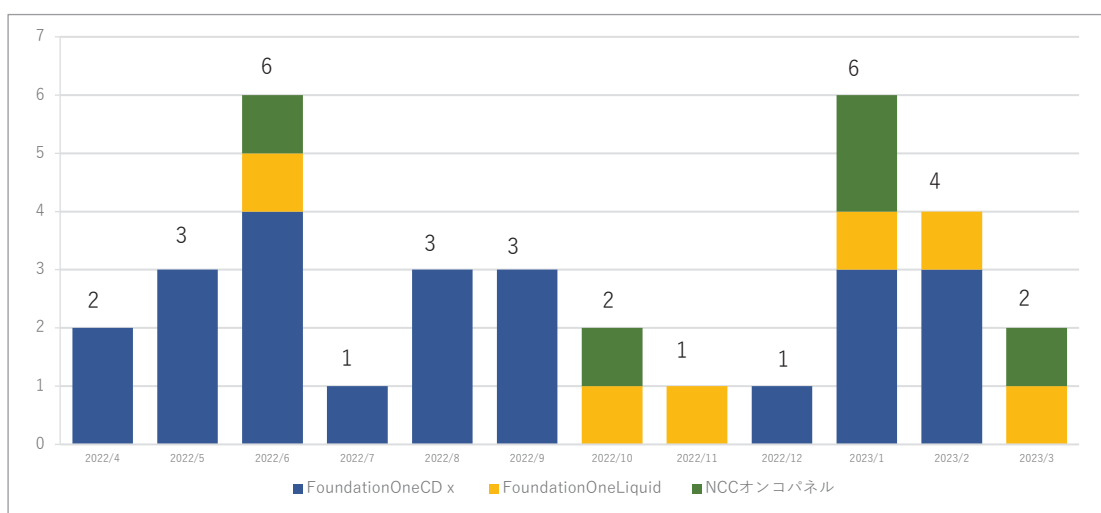


- ① 検査説明同意 オリエンテーション
- ② 組織検体の準備
- ③ 解析機にて解析
- ④ エキスパートパネル
- ⑤ 結果説明

- ① 外来にて検査説明、同意書取得と、看護師によるオリエンテーションを行う。
- ② 組織検体がない場合は手術等で組織検体の準備を行う。(組織検体と血液検体が必要な場合がある。)
- ③ 次世代シーケンサーという解析装置を用いて解析する。
- ④ 遺伝子変異に基づく治験などの提案を行う(エキスパートパネル)会議に参加する。
- ⑤ エキスパートパネル後、外来で結果説明を行う。

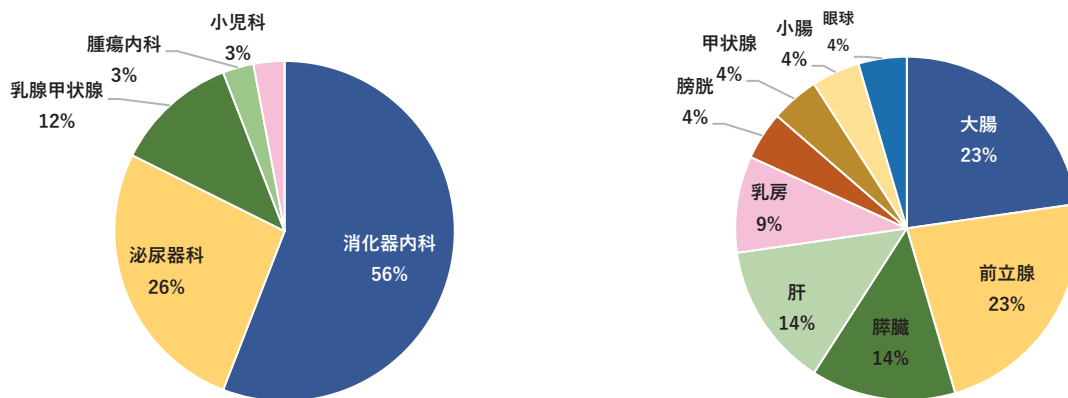
1. がんゲノムプロファイリング検査の種類別件数

<2022年4月から2023年3月末までの実績は34件です>



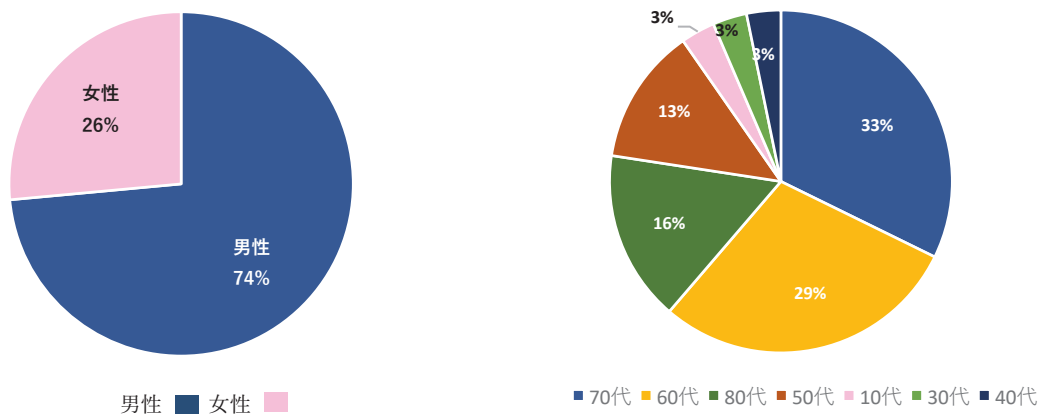
➤ 検査種別: FoundationOneCDx23件 FoundationOneLiquidCDx6件 NCCオンコパネル5件

2. がんゲノムパネル検査実施の診療科別・臓器別割合



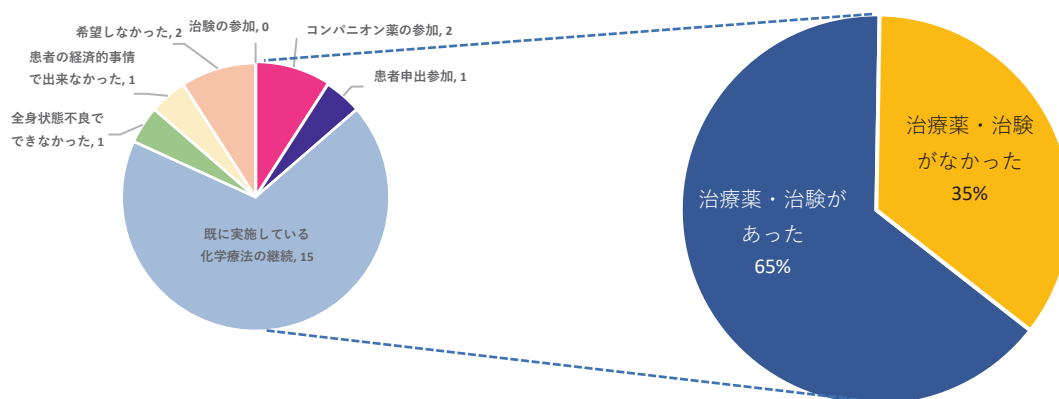
- 当院では、消化器内科と泌尿器科が全体の8割を占めており、臓器別では大腸癌と前立腺癌が全体の半数近く実施している。

3. がんゲノムパネル検査実施の年性別・年代別割合



- 当院では、男性が8割を占めており、年代別では70代と60代が多くを占めている。

4. エキスパートパネル後の遺伝子変異に基づいた治療薬・治験の件数



- がんゲノムパネル検査により、コンパニオン薬2例、患者申出療養1例に入ることが出来たが、治験に結びついた症例はなかった。